

江東区臨海部都市交通ビジョン（案）について

1 概要

江東区都市計画マスタープラン2022の重点戦略2「未来の臨海部のまちづくり」を推進するため、本区臨海部の都市交通の目指す姿やその実現に向けた方針等を示す「江東区臨海部都市交通ビジョン」を策定する。

2 都市交通ビジョン（案）の構成

| 章 | 主な記載内容 |
|---------------------------------------|--|
| 第1章 はじめに | 策定の目的、位置付け、目標年次、対象範囲 |
| 第2章 臨海部の 現状と将来 を見据えた 視点 | 交通の状況、まちの将来像を見据えた都市交通の視点 【都市交通の視点】 ・増加する移動需要への対応 ・利便性・安全性への配慮 ・新たな交通技術の活用 |
| 第3章 臨海部の 都市交通の 目指す姿と 基本方針 | 都市交通の目指す姿、基本方針 【目指す姿】 ・地域の魅力を最大限に発揮させる自由で持続可能な交通 【基本方針】 ・アクセス性の高い交通ネットワークの形成 ・臨海部のポテンシャルを活かした回遊性の向上 ・多様な交通が連携したシームレスな交通体系の構築 ・誰もが安全・快適に移動できる交通環境の創出 |
| 第4章 取組みと ロードマップ | 取組み、ロードマップ、 取組み実施後の将来イメージ（パース） |

3 骨子案からの主な変更点

- ・第2章において交通の状況に関する記載を充実。
- ・第3章に将来の臨海部全体の交通体系を示す図を追加。
- ・第4章（取組みやロードマップ等）を追加。

4 意見募集の結果

(1) 実施期間

令和5年12月21日～令和6年1月10日

(2) 意見数

10件

(3) 主な意見（要旨）

| 番号 | 意見（要旨） | 区の考え方 |
|----|---|--|
| 1 | 有明地区は大規模イベント施設でのイベント開催時のバスの輸送力不足が深刻化しており、対応策を記載する必要がある。 | 有明地区のイベント開催時の輸送量不足については、区でも認識しており、東京都に対する都営バス増便の要望などを行っております。 本ビジョンでは、個別のエリアごとの記載は行っておりませんが、イベント開催時における交通需要の時間的集中や公共交通・道路の混雑の緩和が期待される交通需要マネジメント、パーソナルモビリティ等の端末交通の導入などの取組みについて記載しています。 |
| 2 | 人口減の影響もあり運転士確保の問題があるため、豊洲又は東雲を起点とし、LRTのような形で臨海部を循環する自動運転に適した交通システムを導入してほしい。 | 公共交通の担い手不足の解消にも寄与することが期待される自動運転バスの導入など、臨海部の回遊性の向上に向け、端末交通の導入を促進いたします。 |
| 3 | 地下鉄8号線の延伸等により、亀戸地区から臨海部への交通利便性を向上してほしい。 | 地下鉄8号線延伸の着実な推進に加え、臨海部と城東地域を結ぶ南北交通の充実に向けた取組みについても検討いたします。 |
| 4 | 豊洲地区や有明地区の都営バスの増便やゆりかもめ延伸を行うべき。 | 各地域におけるバス交通に関するニーズを踏まえ、都営バスの「豊洲 千客万来」へ向かう路線等の充実について、東京都へ要望を行っております。 ゆりかもめの延伸については、具体的な検討はなされておりましたが、関係機関の動向を注視いたします。 |

| | | |
|---|--|---|
| 5 | <p>回遊性の高いウォーカブルなまちづくり等の歩行者視点の地域交通についての検討が今後行われることを期待するとともに、自動運転車などの新交通形態の将来的な活用等について示されることを期待している。</p> | <p>歩行者が快適に移動できる空間の創出に加え、交流やにぎわい、散策、滞留など多種多様な機能を有するウォーカブルな空間の整備を検討いたします。</p> <p>また、自動運転など将来の交通技術の進展も見据え、新たな交通モードをはじめとした多様な端末交通の導入も促進し、移動しやすい交通体系の構築を目指します。</p> |
| 6 | <p>新木場駅は3線が乗り入れ利便性は高いものの、駅周辺利便施設については十分な集積があるとは言えないため、新木場エリアの域内交通の充実に向けた取組みについて提示してもらいたい。</p> | <p>本ビジョンでは、個別のエリアごとの記載は行っておりませんが、新木場エリアにおいても、域内交通の充実に向け基本方針に基づく取組みを推進いたします。</p> |

5 今後のスケジュール（予定）

令和6年3月 策定

4月 区ホームページにて公表